

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2012.09) 平成22年度:172.

高齢者の退院支援における合同カンファレンスの効果

古沢亜矢子

高齢者の退院支援における合同カンファレンスの効果

旭川医科大学病院 7階東ナースステーション ○古沢亜矢子

【目的】

高齢者の糖尿病患者が在宅療養を継続するには家族の協力が必要である。今回、他職種との合同カンファレンスにより早期から退院後の生活を見据えた介入ができたので報告する。

【方法】

事例研究。倫理的配慮：個人が特定されないように配慮し、研究以外には使用しないことを説明、同意を得られた。

事例紹介：78歳女性。2型糖尿病、関節リウマチ（以下RAとする）5年前よりRAのプレドニン内服で血糖値が上昇し、HbA1Cが9～10%まで上昇、インスリン導入目的で入院となる。息子夫婦と同居しているが農家であり日中は家に一人でいることが多い。

【結果】

インスリンの自己注射は視力低下や関節痛により穿刺や単位数の確認など一部介助を要していた。医師、看護師、薬剤師、栄養士、MSW、糖尿病看護認定看護師との合同カンファレンスでは、医師、薬剤師から、重度の

低血糖症状で救急搬送された経験があること、栄養士からは、自宅やデイサービス先で提供される間食が多かったと情報があつた。MSWからは、家族は農繁期にショートステイを考えているが、インスリン自己注射が条件であると説明があつた。それらの情報を元に介入した結果、本人はインスリン注射の手技が獲得でき、家族は血糖測定、単位数の確認、低血糖の対処やシックデイ、間食について理解され協力が可能となった。MSWを通して地元の訪問看護師にもサマリを添付した。

【考察】

各職種が独自に得た情報をカンファレンスで共有し、共通認識の下、それぞれの職種が専門性を発揮したことで患者や家族に適したケアが提供できたのではないかと考える。今後も合同カンファレンスを行って他職種と連携しあい、早期から患者や家族の意向を踏まえた退院支援を行っていきたい。